

リーダーたちの本棚

Leader as Readers

企画・制作 朝日新聞社広告局 広告特集

L 体と地球のために 無添加せっけんを

【率いる】 Leading

大学を卒業してすぐにシャボン玉石けんに入社。各部署での研修を経て営業と開発を担当した。「入社に際して先代から訓示めいたことを言われた覚えはありません。身をもって多くを習得しろということだったのでした」

製造現場の研修では、職人から製法を学んだ。シャボン玉石けんは、天然油脂を原料とし、伝統的な釜炊き製法によって作られる。「約1週間かけてじっくり火を通すのです。仕上げの際は、熟練の職人が舌でなめて出来具合を確認します。安全な原料を使っているからこそできる技です」。通信販売部では、顧客から届いた山積みの手紙を目にした。その大半が、「悩んでいた肌荒れが治った」「安全な商品をありがとう」といった喜びの声。「商品に対する誇りとともに、お客様の信頼を裏切るようなマネはすまいと決意を新たにしました」。営業活動は全国に及び、月の半分は県外という年もあった。先代が長く手をつなげた液体せっけんの製品化に際しては、主導的役割を担った。



シャボン玉石けん 代表取締役社長 森田隼人 さん

1976年福岡県生まれ。専修大卒。2000年シャボン玉石けん入社。問屋や百貨店などへの営業及び商品開発を担当。02年取締役副社長。07年3月から現職。シャボン玉販売、シャボン玉本舗、シャボン玉企業代表取締役社長を兼任。

産学官連携で消火剤を開発

液体せっけんのベースとなったのが、消火剤の製造技術だ。北九州市消防局から「天然成分の消火剤を開発できないか」と依頼を受けた先代の光徳さんは、入社2年目の森田さんを開発責任者に任命した。「職人や開発担当者が試行錯誤を重ね、北九州市立大学の先生のご助力も得て開発を進めました。試作品は800種類に及びました」

この過程で、はからず液体せっけんの製造ノウハウが蓄積。商品化に乗り出した。「粉せっけんは少量で洗浄でき、輸送面でもコンパクトでエコ。ただ、液体のニーズは高く、「これなら、お客様に喜んでいただける」と先代も納得する品質に達したため、05年に販売を開始しました」

2年後には、ついに完成した消火剤「ミラクルフォーム」を販売。この「少量型消火剤の開発と新たな消火戦術の構築」プロジェクトは、産学官連携功労者表彰において総務大臣賞を受賞。同年、森田さんは社長に就任した。

「早すぎると思いましたが、『肩書が人を作る』を持論とする先代の意向でした」。半年後に先代は他界。理念を引き継ぎながら、森田さんは新たな可能性にも目を向ける。林野火災などが起きたときに空から散布する消火剤もその一つ。「ミラクルフォーム」の技術をもとに開発したもので、環境保全の観点から世界的な普及を目指す。

「挑戦を恐れず、なおかつ活動の幹は、あくまで無添加せっけん。最近では、主成分が化学物質であるのに合成着色料などが入っていないだけで「無添加」とうたった商品も氾濫しています。自然に還る天然素材のみを原料とした無添加せっけん、自然に還らない物質を含む合成洗剤の違いは、成分表示を見ればわかります。正しい知識を広めながら、健康な体ときれいな水を守る商品を届け続けていきたい」

■朝日新聞社広告局ウェブサイトでは、森田隼人さんが語るリーダー論を紹介しています。
http://adv.asahi.com
朝日新聞 広告 検索

森田隼人さんのおすすめ本棚

『自然流「せっけん」読本』(農山漁村文化協会) 森田光徳・著
合成洗剤と無添加せっけんの違い、製法、安全性、洗浄力、価格などあらゆる角度から徹底比較。無添加せっけんに目覚めた経緯や普及活動の軌跡も紹介。

『沈黙の春』(新潮文庫) レイチェル・カーソン・著 青樹信一・訳
海洋生物学者の著者が、農業など化学物質による、人や動物の健康被害、土壌汚染や水質汚染などを告発。初版は62年。環境運動の端緒となった一冊。

『壬生義士伝』上・下巻(文春文庫) 浅田次郎・著
「死にたぐはねえから、人を斬るのす」。壬生浪と呼ばれた新選組にあって、ただひとり庶民の心を失わなかった吉村貫一郎の非業の生涯をつづる。

『全一冊小説 上杉鷹山』(集英社文庫) 重門冬二・著
九州の小藩から17歳で上杉家の養子に入り、自ら領約に努め、米沢藩の財政を立て直した上杉鷹山。民を思い、組織を思い、国を思った名君の物語。

『ビジネスで失敗する人の10の法則』(日本経済新聞出版社) ドナルド・R・キーン・著 山崎洋一・訳
「ビジネスのような変化の激しい分野で成功の法則などない」という著者が失敗の法則を伝授。著者の盟友・ウォレン・バフェットが序文を執筆。

父は家で仕事の話をしていない人だったので、私は学生時代にこの本を読んだことを知りました。環境関連の名著では、農業や殺虫剤による健康被害と自然破壊に警鐘を鳴らしたレイチェル・カーソンが、

父は読書家でした。蔵書は今も実家の本棚にずらりと並んでおり、いつか端から読んでみたいと思っています。私の読書量がぐんと増えたのは、入社してからです。営業を担当していた頃は出張が多くなり、移動時は常に本を携えていました。「壬生義士伝」は、電車の中で何度も涙をこらえて読んだ小説です。南部藩を脱走して新選組に入った吉村貫一郎の人物像を、斎藤十兵衛の周辺にいた人々の証言を通して浮き彫りにしていきます。守銭奴と呼ばれても「人としての義」を貫き、妻子への仕送りにために太刀をふるった貫一郎。その愚直な生き方に深い感銘を受けました。実在の人物と架空の人物を織り交ぜたインテリ形式の構成も新鮮で、面白かったです。

時代小説では「上杉鷹山」も心に響きました。一時期、鷹山に学べようといった内容のビジネス本がはやり、先にそちらを勢を尊敬しています。(感)

R 我が社を救った先代の著書

【読む】 Reading

明治後期に創業、福岡県北九州市を拠点とするシャボン玉石けん。市場を占める合成洗剤と70年代に決別、無添加せっけんに絞る、健康と自然に配慮した商品を作り続けている。3代目の森田隼人さんは30歳で社長職を継ぎ、今年37歳。「人としての厚みは、読書量と比例する気がします。先代の亡き父は大変な読書家でした」

先代が「無添加」にシフト 本を通じて問題提起

「会社を継いでくれ」と父から言われた記憶はありませんが、物心ついた頃から自分が継ぐのだらうと思っていました。父が他界したのは、私が社長に就任して半年後。享年76歳でした。その父が91年

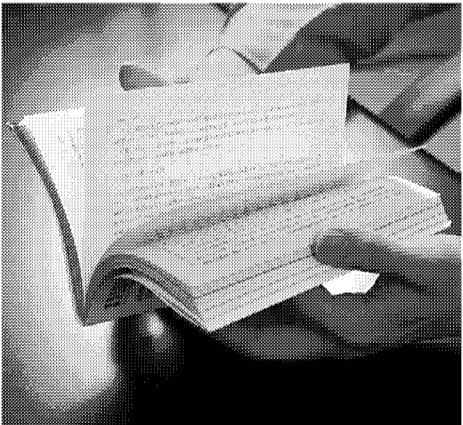
に著し、赤字続きだった我が社を救ったのが、「自然流「せっけん」読本」です。父光徳は、初代の跡を継いで合成洗剤を製造・販売し、高度経済成長に乗って業績を伸ばしました。しかしこの頃、原因不明の湿疹に悩まされ、それが合成洗剤のためだとわかったのは、無添加せっけんの注文を受けたときのこと。試作品を洗たくや体洗いに使ったところ、うその

ように湿疹が消えたのです。父は主力商品だった合成洗剤の人体への影響を知り、74年に無添加せっけんの製造・販売を完全にシフトしました。ドル箱だった商品と決別したことで、売り上げは99%減り、1000人いた従業員はたった5人に。それでも信念を曲げず、赤字は17年間続きました。本を執筆したのは、合成洗剤を疑いなく使っている消費者に問題を提起したかったのだと思います。若い頃は物書きになりたかった父が、万人にわかりやすい内容と心を砕いたこの本は、無添加せっけんを合

成洗剤がどう違うのかという解説とともに、巻末に「全国安全石けん製造業者リスト」としてライバル社も掲載されています。自社の宣伝よりも、人の健康と地球環境を守らなければならないという使命感が先に立ったのでしょう。出版した年に沿岸戦争が勃発し、重油まみれの水鳥の映像がテレビで流れたりしたこともあり、環境意識の高まりの中、本は売れ、商品の注文も増え、翌年黒字に転換しました。

共感するのは 信念を貫く生き方

父は読書家でした。蔵書は今も実家の本棚にずらりと並んでおり、いつか端から読んでみたいと思っています。私の読書量がぐんと増えたのは、入社してからです。営業を担当していた頃は出張が多くなり、移動時は常に本を携えていました。「壬生義士伝」は、電車の中で何度も涙をこらえて読んだ小説です。南部藩を脱走して新選組に入った吉村貫一郎の人物像を、斎藤十兵衛の周辺にいた人々の証言を通して浮き彫りにしていきます。守銭奴と呼ばれても「人としての義」を貫き、妻子への仕送りにために太刀をふるった貫一郎。その愚直な生き方に深い感銘を受けました。実在の人物と架空の人物を織り交ぜたインテリ形式の構成も新鮮で、面白かったです。



おかげさまで 創業80周年 三笠書房

千代田区飯田橋3-3-1 http://www.mikasashobo.co.jp

至極文庫 心屋仁之助の大ベストセラー

知的生きかた文庫 最新刊!! 2014年版 業界地図

80 珠玉の名著 新装版!! 自分嫌いな 自分が嫌いな

「へこみやすい」のは、こんな心の長所があるから。24万部突破!! 心が凹んだときに読む本

若返る 粗食で 若返る

君は息子よ、君はどう生きるか

心屋仁之助の「悩み」をズバリ解決します! 20万部